

観光客の安全を守るため、楽しく学びました！

(静岡県熱海市にて実施したカフェ)

開催詳細：P59 参照

地域にあった“防災の備え”を考えるには、観光産業、漁業、農業といった地域を特徴づける産業を無視しては考えられません。このカフェでは、静岡県熱海市の基幹産業である“観光”をテーマにした防災カードゲームを通じ、観光産業関係者や一般の人とみんなと一緒に災害時の観光客の安全、自分達の暮らしの安全について考えてみました。



【クロスロードとは】

今回用いた教材は、**災害対応カードゲーム「クロスロード」**。トランプ大のカードを利用した手軽なグループゲームです。神戸編、市民編の2種類が市販されていますが、今回は地元の人々の意見を聞きながら“**ご当地版**”クロスロードを作りました。

「クロスロード」とは、「岐路」、「分かれ道」のことを意味し、参加者は、ゲームを通じて、災害対応を自らの問題として身近に考えることができます。そして、ゲーム感覚だからこそ、自分とは異なる意見・価値観の存在に気づいていくことができます。楽しく、しかし、真剣に、災害対応について学べる防災教材です。

【クロスロードの進め方】

ルールの説明・カード準備

自己紹介（グループ毎）

問題読み上げ



「YES」「NO」カードを選択

一斉に表に向ける

時には、「青」「赤」カードを一斉挙げ



みんなで一斉に「青」「赤」カード

ざぶとん代わりのお菓子選び

多数派は「青ざぶとん」、少数派は「金ざぶとん」を貰うことができます。ざぶとんは熱海市の銘菓で、どれもとてもおいしそう！

意見発表



目から鱗の意見が出ることも・・・

振り返り



パネルを使って分りやすく解説

【ご当地版問題の紹介】

ご当地版問題をつくるにあたり、「観光」「(予知が可能とされている)東海地震」などをテーマにしてみました。

テーマが「観光」の設問

あなたは、ホテルの支配人。冬季に地震。ホテルの被害は確認中だが、幸い大きな問題はなさそう。しかし、交通機関がストップして行き場のなくなった人々がロビーに続々入ってきた。ここは避難場所ではないし、対応する人手もない。入り口を閉める？

解説では、阪神・淡路大震災の時に市役所のロビーに避難してきた人が集まった雑誌の写真を紹介しました。出された意見は、「お金を支払って宿泊している客との差別化を図るのか?」「10人、20人なら受け入れられても、100人、200人なら?」「食べ物が不足する」など様々で、いざとなったらどうするか?を考えておくきっかけになった、という声が多く寄せられました。

テーマが「東海地震」の設問

あなたは、花火大会の実行委員長。あと2時間で花火大会開始というその時に、東海地震の観測情報が入ってきた。事務局内では開催について慎重論も出ている。予定通り開催する？

解説では、東海地震の3段階の情報の違いについて説明がありました。それぞれの情報の違いと対応するべき行動について、覚えて帰ってもらいたい重要なポイントを中心に説明しました。大事なことでも、専門的であったり、詳細過ぎると「難しそう…」という思いが先行してしまい、関心を持ってもらえなくなってしまうため、分かりやすく伝えることを心がけました。



解説にはなるべく写真やイラストを使い、わかりやすく伝えることを心がけました。

【開催のポイント】

いざ、防災をテーマに話し合おうと思うと、「意見がなかなか出しづらい」、「人の意見を聞けない」、といったことになってしまうこともあります。特に、それが地域特有の問題と関係するとなるとなおさらです。今回はカードゲームを使うことで、**楽しく気軽な雰囲気の中で、地域が抱える特有の問題や課題を、色々な立場の人と話し合うことができました。**

【やってみませんか?】

地域が抱える防災の問題は様々です。都市地域・過疎地域、山間部・海岸部など場所が変れば、予想される災害も地震、津波、土砂災害、高潮、都市型水害など色々です。そこで、例えば、**市販されているクロスロードの問題の人口数を地域の人口数に変えてみる、実際にある地域名(固有名詞)などを入れてみる**だけでも、問題がぐっと身近に感じられ、リアリティが感じられます。また、**特定の業界(漁業、農業など)の問題を、関係者をつくる過程が、防災について考える場**となります。ぜひ、みなさんの地域が抱える問題や課題をクロスロードにして、みんなで話し合ってみる場を創ってみませんか？